

1年生

2年生

3年生

4年生

到達目標

ソーシャルアクティブラーニング（地域社会演習）にて、地域在住高齢者に対してストレッチの実践や運動指導が行える。

計測実習にて、標準的な検査・測定手技を対象者に対して正確に実施し、対象者の反応から適切に結果を読み取ることが出来る。結果の解釈に必要な知識を基礎三科目から引き出せる。

知識と技術を統合し、臨床思考を身に付ける。結果の解釈の精度向上に向けて挑戦する。

資格取得と社会に出て働き始める準備ができる。

知識

探求心を持ち、知識のつながりを確認しながら意欲的に学習をする基盤を構築する。

基礎三科目（解剖・運動・生理学）の国試過去問で60%以上正解できる。

検査・測定の原理原則を理解し、信頼性の高い検査・測定を実施できる。

基礎三科目（解剖・運動・生理学）の国試過去問で70%以上正解できる。

「結果の解釈」に必要な専門的知識の土台となる基礎三科目（運動学・解剖学・生理学）を習得している。

基礎三科目の国試過去問で80%以上正解できる。初見の模試問題で60%以上正解できる。

基礎科目（解剖学・運動学・生理学）と専門科目の繋がりを理解し、新規の問題にも対応できるような応用力を身につける。

臨床思考

技術

学習で得た知識を活用しながら、ストレッチを実践できる。

失敗や成功の実体験から自らの伸びしろ（改善点）を見つけ、次年度以降の成功体験へとつなげるための気づきを持つ。

標準的な手技の練度を高め、対象者に正確な検査・測定を実施できる。また、対象者の反応を受け取ることが出来る。

評価実習で对患者の検査測定を経験し、それらの『結果の解釈』について、指導者に質問や相談をしながら進めることできる。

臨床実習前登院試験にて「なぜ測るのか？」の問に対して、疾患の病態に基づいた評価や動作観察を行うことができる。

臨床実習前登院試験の整形疾患分野の「技能」の項目で80%を取れる

基本的理学療法（評価、治療）を実践できる（型を身につける）。

基本的な評価や治療評価実習で对患者の検査測定を経験し、それらの『結果の解釈』について、必要時、指導者に質問や相談ができる。

統合と解釈から得られた「治療計画」に対して、指導者との意見交換を通じて、考察を立てることができる。

卒業